魔法少女リリカルなのはStrikerS-あなたの騎士-

nizigener

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
魔法少女リリカルなのはＳｔｒｉｋｅｒＳ－あなたの騎士－

【Ｎコード】
Ｎ２０３４ＢＡ

【作者名】
ｎｉｚｉｇｅｎｅｒ

【あらすじ】
機動六課に入ることになったリオル＝ハルバート、教導官のなのはや
執務官のフェイト
とともに
スバル達の教導にあたる。

そんな中

恨みや恋がいつの間にか生まれていく……。

#1　明日への予感（前書き）

はじめての投稿です。

なのはのアニメは3期まで見ましたが

勘　と　感覚　で書いてるので

見苦しい点もあるかもしれませんが

よかったら感想下さい。

#1　明日への予感

「魔力全開ィ！！」

もうすぐゴール

そんな時

足を挫いて私におぶさっている相方が言う

「ちょっと、あんた！止まるときのこと考えてるんでしょうね？」

！

しまった

「えっ、…あぁ！」

「うそぉ！」

「あっ、なんかちょいヤバです。」

二人は高速でゴールにつっこむ。

「「ひゃあぁぁぁ！」」

……

「アクティブガード、ホールディングネットもかな。」

【ａｃｔｉｖｅ　ｇｕａｒｄ、ｗｉｔｈ、ｈｏｌｄｉｎｇ　ｎｅｔ】

ものすごい爆音を桃色の魔法が包んだ。

全力で突っ込んだ
スバル＝ナカジマ
その肩から跳び落ちた
ティアナ＝ランスター

２人とも魔力による網により衝撃から免れた。

「むぅ！
２人とも危険行為で減点ですぅ！
がんばるのはいいですけど怪我をしては元も子もないんですからね
…！」

怒りながら降りてきたのは
リインフォースツヴァイ曹長。見た目は小さいが夜天の書のプログラムに関わる人物（？）だ。

「まぁまぁ２人とも無事だったんだし、とりあえずこれで試験は終了ね。お疲れ様。」
そう言いながら、
高町なのは
は試験が終了した２人を
網からそっと魔力で地面に下ろしてあげた。

「リインもお疲れ様、ちゃんと試験官できてたよ。」

「わ～い！ありがとうございます、なのはさん。」
リインは小さな体をいっぱい広げて喜んでいる。

「さて…、ランスター二等陸士、」

「あっ、はい！」

「怪我は足だね、治療するからブーツぬいで。」

「あっ治療なら私がやるですよぉ」

リインがティアナのもとへ向かう。
「あぁすいません。」

そんな中スバルは立ち尽くしていた。
「なの…は…さん。」

「ん？」
彼女はスバルの方を向く

「あっいえ、高町教導官、一等空尉！」
慌てて言い換えるスバル

「なのはさんでいいよ。
みんなそう呼ぶから
……四年ぶりかな、
背伸びたね…スバル」

「えっ！あの……」
「うん、また会えて嬉しいな。」
嬉しくて泣いてしまうスバル

「ランスター二等陸士はなのはさんのことご存知ですか？」

「あっ、はい！
戦闘訓練の教導官、
管理局魔導師の若手ナンバーワン
高町なのは一等空尉」

「はい」
頷くリイン。

泣き喜ぶスバル
なだめるなのは
治療をするリイン
してもらうティアナ

そんな彼女達をヘリから眺めていた
２人の人物

フェイト＝テスタロッサ＝ハラオウン執務官。
八神はやて二等陸佐

「ひょっとして知り合い？」

「ほらあれやよ、前に起こった空港火災。」

「あぁ私となのはが遊びにきてた時の」
「スバルはなのはちゃんが助けた用救助者の一人で、フェイトちゃんはスバルのお姉ちゃんを助けてるんよ。」

「本当に？女の子を助けたのは覚えてるけど、」

「そう、その子や。」

なのはがこっちを見てる、
隣のスバルは慌てて敬礼してる
私も敬礼する。

「なのはからして二人は合格かな？」

「さぁ、どうやろね。」

……

「3人には明日から時空管理局本部の陸士部隊
『機動六課』に入り
教導官　また　部隊員として働いてもらう」

そんなことを我らが隊長は言い出した。

「おい！ディルミス！聞いてるのか！」

「き、聞いてますよ！」

どなるのは
我らが隊長様
メリティア＝ツクラート
なんと口調に似合わず女性だ

どなられたのは
俺の親友
ディルミス＝フォール

「ずいぶん急な話ですね」
「『機動六課』の八神はやて二佐から連絡があってな。」

丁寧に隊長と話すのが
これまた親友の
ホシカゼ＝マツナ

「明日の朝3時出発だ、早く支度して、寝ろ！以上。」

ちょっ、朝3時かよ
いきなりすぎだな

ん？俺か？
俺はリオル＝ハルバート
ツクラート隊長率いる
時空管理局支部特殊戦闘部隊の一員だ

ちなみにさっきの
ディルミスとマツナも
この部隊のメンバーだ。

超展開で俺達も理解してないけど明日から忙しくなりそうだな。

#1　明日への予感（後書き）

今回はアニメとほとんど同じです。
（あまり再現できてないけど）

作者（以後、私）
は
フェイトちゃんが大好きなので
どういう展開かは予想がつきますが、

オリキャラが４人と多めの設定で、原作に無い話も多数展開していくつもりです。

原作キャラとストーリーは崩壊しないようにがんばります。
よろしければ、今後もご覧下さい。

#2　出会いと始まり（前書き）

第2話です。

＃2　出会いと始まり

「ふぁ、着いたぁ～」
欠伸しながら言うディルミス

現在時刻　８：３５

俺達の支部から５時間以上かかる本部

本当に疲れた。

「ほら、何をぼてている！これからが大変だからな！」

「「「は～い。」」」

「なんだその腑抜けた返事は！
気合いをいれろ！」

「「「はい！」」」

ツクラート隊長の話によると、
今日は
８：５０にロビーに集合

呼ばれた部隊員全員は
機動六課の部隊長
八神はやて部隊長から話を聞く

その後

八神はやて部隊長
フェイト＝テスタロッサ＝ハラオウン執務官
高町なのは一等空尉
等と会い、
今後の教導に
当たって
フォワード部隊の誰を担当するかを決める。

メカニックのシャーリーさんに
俺達の健康診断
と俺達のデバイスのメンテナンスチェックを受け

昼食をとり

午後から
フォワード部隊の教導にはいる。

…といった感じだ。

そして
今
「…ほな、長い挨拶は嫌われるんで、機動六課部隊長、八神はやてでした。」

パチパチパチパチ…
部隊長の話が終わり
機動六課メンバーからの拍手。
その後、バックヤードスタッフの後ろにいた俺達に部隊長が目配せ

してる。

「俺らのこと呼んでるのか？」
「そうみたいだね。」
「行くか。」

予定通り　部隊長室に行く俺達。

ジぃー
ツクラート隊長が
インターホンのようなものを押し

「どうぞ」
部隊長の声が聞こえる

「失礼します」

「あぁツクラート隊長、お久しぶりやな」
「はやても久しぶり。」

二人は昔からの知り合いらしく普通に話してる。

「今回は急な話でごめんな」

「いや、こっちは正直暇してたから」

「そうか、ならよかった。
それでそちらの方達が…？」

「あぁ、こないだメールで言ってた。おまけ達自己紹介しろ」

マツナは控えめ
ディルミスはなんかびびってるから
俺からいくか。

「本日より機動六課でお世話になります、リオル＝ハルバート一等空尉です。よろしくお願いします。」

「同じくホシカゼ＝マツナ一等空尉です。」

「お、同じくディルミス＝フォール一等空尉です！」

「えっ？…」
八神さんが唖然としてる

「ツクラート隊長、みなさん一等空尉？」

「そうよ。」

「3人とも」

「ええ。」

「そういや、教導官も任せれる言うとったな。」

なんだなんだ

一等空尉がそんなに特別か？

「私が推薦する3人だから、はやてに迷惑はかけないわ。」
「そうか…ははは」
どうやら八神さんはあまり、教導には期待してなかったみたい…。

「私は他の局員にも会ってきますので、これで失礼します。」

「あぁ、メルっち　また後で」

「はやて、その呼び方はやめて」

「まぁまぁ気にせんといて。」

……
「ほな隊長はいいとして二人もご挨拶やな」

「うん、私は高町なのは一等空尉であります。なんか堅いの苦手だから気軽に
なのは
って呼んで下さい。よろしく、えっとリオル君、マツナ君、ディルミス君」

物覚えのいい方だ。

「あっえっと。私はフェイト＝テスタロッサ＝ハラオウン執務官です。よろしくお願いします。」

気づいたら隊長は部隊長室を去っていた。

「ほな、早速やけど教導の担当から決めよか」

「はい！」

「リオル、リオル」
ディルミスが横からつついてくる
「なんだよ、気持ち悪い」

「隊長の敬語ってなんか笑えるな。くくく」

「静かにしろ」

「あのぉディルミス君、大丈夫？」
「えっ！いや、はい。」
びびってるな、これは

「ディルミス緊張しすぎ」
対してマツナは余裕だな。

「あんまり堅くならんでええよ」

「は、はい」

「それじゃあ改めて、今回機動六課の新人メンバーはこの４人や。」
モニターに上がってるのは

スバル＝ナカジマ
ティアナ＝ランスター
エリオ＝モンディエル
キャロ＝ル＝ルシエ

「資料から希望があれば言ってくれるか？ちなみに先に言ってるようになのはちゃんはスバルとティアナ、フェイトちゃんはエリオとキャロの担当ね。」

「うん。」
「大丈夫。」

そこで
「俺はスバルがいいかな。」
「お、ディルミス君はスバルが好みか？」
「え？ちがうって」
「ははは。冗談や」
「まぁスバルのデバイスはディルミスと少し似てるからね」
マツナはよく理解している。

「あぁそうか、ならディルミス君にはスバルの教導をお願いや」

「射撃型なので、僕はティアナを担当します。」

「ほなマツナ君はティアナっと」

着々と決まっていくが
実はツクラート隊長が去ってから
気になっている事がある。それは

「じゃあ、スバルとティアナはなのはちゃんが担当するからディルミス君とマツナ君はなのはちゃんと交代したりもしくは一緒に二人の訓練にあたってもらうな。」

「「はい。」」

「なのはちゃんもＯＫ？」

「うん」

「それじゃあリオル君はエリオとキャロ二人の担当でもいいかな」

気になっている事とは……

「あぁ、大丈夫です。召喚魔法なら俺も使えるから教えられるでし

ょうし」
「スピードもリオルはあるしね。」
「ディルミスよりはな」
「うるせーな！」
「ははは、フェイトちゃんもそれでええか？」
「……。」
「フェイトちゃん？」
「えっ！はやて？あぁうん大丈夫。大丈夫だよ。」
さっきからフェイトが俺の方をずっと見ているという事だ。
俺が目を合わせるとそらしなさるし、
俺　なんかしたかなぁ……？

「ほな、これからメカニックのシャーリーに検査を受けてな。時間があえば一緒にお昼にしよか。」
「そうですね」
「正直朝日飯抜きだから早く食いたい。」
「検査が終わったらな。」
「うぅ～」

「ははは、」
「ふふふ、」
「……。」

なんか　気軽に話しやすくなったかな。
相変わらずフェイトこっちを見てるけど

「それでは失礼しますね」
「また昼飯の時に会おうぜ」
「それじゃあ、また」

「うん」
「昼からよろしくなぁ」
「あっえっと…また。」

……

「フェイトちゃん！」
「ひっ！な、なに？なのは。」
「なに？じゃないよ、フェイトちゃんさっきはどうしたの？」

「いや、どうもしないよ。」

「体調悪いの？」

「ううん。大丈夫だよ。」

いけないいけない気をつけなきゃ

あぁでもまだドキドキしてる。

「フェ～イト～ちゃ～ん」

「なに？はやて？」

「私の目はごまかせへんよ。」

はやて　いや　まさかね。

「ずっとリオル君のこと見てたやろ？」

！！

「な、なに言ってるの？そんなことないよ！」

「隠さんでええ。フェイトちゃんがあんな目になるなんて、フェイトちゃん一目惚れやな？」

「えっ！ち、ちきゃうよ！」
「フェイトちゃん。噛んでるよ。」
「えぇ、あぁでも…」
あぁどうしよ。
二人にばれちゃった。
だってリオル君格好良かったんだもん。
って私何考えてるんだろう
「ふふふ、フェイトちゃん初恋？」
なのはたずねてくる
「……うん。」

「私は応援するで！フェイトちゃんの恋！」
「うん！私も！頑張って！フェイトちゃん！」

「えっ！なのは？はやても？」
す、すごく恥ずかしい。
【Ｆｉｇｈｔ　ｍｙ　ｍｕｓｔｅｒ】（マスターがんばれ）
「バルディッシュまで！」
「「あはははは！」」

「えっと……二人ともありがとう。」

「フォワード部隊の担当もリオル君と一緒やし、もちろん教導もやけど、フェイトちゃん、リオル君とのことも頑張りや」

「え？うん。が、がんばります…。」

「でもフェイトちゃんが恋かぁ」

「女性として一番上官になられたな」

「だね～」

「二人とももうやめてよぉ」

「「はははは！」」

私は初日からバタバタだった。

でも、新しい部隊

気持ちを切り替えなきゃ

「バルディッシュ頑張ろうね」

【ｌｏｖｉｎｇ？】

（愛を？）

「うんリオル君と

えっ！ちがうよ

もう、バルディッシュ
お、怒るよ！」

【ｓｏｒｒｙ】
（失礼）

と　とにかく頑張ろう。
がんばれ私
がんばれフェイト！

＃2　出会いと始まり（後書き）

呆れた方
すいません

フェイト大好きなんです。

さてさて
次回は教導にはいります！

もちろん恋！
じゃなくて　戦闘訓練の教導です！

＃3　模擬戦！（前書き）

前回、文字の打ち間違えがありました。すいません。
さらに本文からは分かりにくかったかもしれませんが、
ツクラート隊長は八神はやてより年上です。
それでは、３話です。

#3　模擬戦！

「3人とも、この魔力量……」

「みなさん、はやてちゃんより高いです。」
メカニックのシャーリーとリイン曹長は唖然としている。

俺らはたった今　身体検査が終わった所だ。この検査用カプセルの中はなんか窮屈で
やっと終わってほっとしたぜ。

「元々の魔力量が高いのはディルミスだけですよ、僕とリオルは普通でしたから」
マツナの言うとおりだ。
俺らは生まれて間もないころから魔力操作をしていたから
魔力量も成長に伴って大きくなっている。

「ディルミス君は生まれてからずっとなんですか？」

「あぁ、こいつは賢さを魔力に全部使ったから……」

「リオル、人をバカよばわりすんな！」

「でも昔はよく
“魔力バカ”
って呼ばれてましたね。」

「うるせーよ！」

冗談言ってるうちに
デバイスのチェックも終わった。
「お疲れ様レディアンス」
【ｙｏｕ　ｔｏｏ】
（マスターも）
……
「あっ！リオル君達や！お～い」
「はやて！声大きいよ、」
「でも、ほら時間合ったら一緒にお昼しよって言うてたし。」
「まぁ、そうだけど」
周りの人みんな見てるよ
「それにフェイトちゃん、リオル君と一緒ごはん食べたくないの？」
「なのは！それは……一緒がいいけど」
恥ずかしいよ
「じゃあ、早く！」
「う、うん」
あぁ　リオル君達きちゃったよ。
「検査お疲れ様。」

「デバイスも合わせてだとかなり時間かかるんですね。」
「そやな、私とリインもかなり時間とられたわ。」
「あのカプセルは私も苦手ですぅ」
リインそんなことより
ってみんなリオル君がいるんだよ
どうしてそんな自然なの？
そんな時隣に座ったなのはが
「フェイトちゃん落ち着こ」
小声で言ってくれた。
落ち着かないと、がんばれ私。

「この後は教導やけど、どういう予定？」
「まずは、ガジェットを使った模擬戦ですね」
「多分これから一番多く倒すことになる敵だからな。」
あっ、リオル君が喋る！
「フォワードの資料だけじゃ把握できないとこを大まかに見るのが、最初はいいかなって感じだな。」
やっぱりカッコイイ！

「そうかぁ、まぁ
これだけ先生もいたら安心やわな。
なっ？フェイトちゃん。」

「えっ？はやて？うん。」

「フェイト先生しかっりしてよ。」

「ごめん。なのは。」

「「「はははは。」」」

みんなに笑われちゃった。
でもリオル君、やっぱり笑顔も素敵だなぁ。

……

さて、今日から訓練開始だ。

向こうから新人フォワード達が走ってくる。

「……みんなの担当は言ったとおりだけど、個別スキルにはいるまでは関係ないから頭の片隅に置いといてね。」

「「「「はい！」」」」

「それじゃあ早速訓練をはじめようか！」

フォワード達は不思議そうだ。無理もない。ここはどう見ても、ただの平地。
「でも、ここでですか？」
「シャーリー！」
「は～い！
機動六課自慢の訓練スペース、なのはさん完全監修の実戦用空間シュミレーター、ステージセット！」
…すると　ビル群が平地に現れた。
「おぉ」
「すごい」
俺達もよく使う空間シュミレーター。
新人達は初めて見るみたいだな。
そして、新人達がセットに入る
「それじゃあ早速ターゲットを出していこうか。」
なのは　は無線で新人達に指示をだす。
俺達3人とフェイトは観察って感じだ。
ピピピッ
ステージの操作はシャーリーがやってくれる。
「動作レベル　C

攻撃精度　Ｄってとこですかね。」
「うん。」
「これから私達が戦うことになる相手はこれ！」
ステージに８体の機械が現れた。
「自立型魔導機械、通称ガジェットドローン。これは近づくと攻撃してくるタイプね、攻撃は結構鋭いよ。」
「それじゃあ、逃走する機体８体を破壊或いは捕獲、１５分以内に。」
「「「「はい！」」」」
「それじゃあ、」
「ミッション」
「「スタート！」」
新人達は走る走る。
まだまだ危なっかしいな。
「なにこれ？動きはやっ！」
「だめだ、ふわふわよけられて当たらない。」
スバルとエリオは攻撃がなかなか当たらないか…

「前衛２人分散し過ぎ！ちょっとは後ろのこと考えて！」

「あっ、はい。」

「ごめん。」

ティアナは……

「ちびっ子、威力強化お願い。」

「わかりました。ケルケイオン！」

【ｂａｌｌｅｔ　ｂｏｏｓｔ】

「シューーート！」

バンバンバンッ……

いい弾丸だけど

ガジェットには届かない。

「バリアー？」

「違います、フィールド系」

「魔力が消された！？」

「そう、ガジェットドローンには厄介な能力があってね、アンチマギリングフィールド、ＡＭＦ。普通の射撃は通用しないし、……」

おいっ、スバル危ないだろ。

「このぉ」

ウィングロードで一気にスバルが駆け上がる。
「スバル、ばか、危ない！」
「……それにＡＭＦを限定にされると、」
スバルのウィングロードがぐねぐね曲がり、スバルが落下した。
「足場作りや、移動系魔法の使用も困難になる。スバル、大丈夫？」
「あはは、なんとか。」
まだまだこれからだな。
「対抗する手段はいくつかあるよ、素早く判断して、素早く動いて」
「「はい！」」
……
「ちびっ子、名前なんていったっけ？」
「キャロであります。」
「キャロ、手持ちの魔法とそのちび龍の技で使えそうなのある？」
「試してみたいのがいくつか…」
「私もある…」
前衛に時間稼ぎしてもらうしかないわね、
「スバル！」

「うん、わかった。エリオ！」

「えっ、」
「あいつらに先行して足止めできる？」
「えっと」
「ティアナが何か考えてるみたいだから時間稼ぎ！」
「やってみます！」
……

「いくよ、ストラーダ！カートリッジロード！」
【ｅｘｐｌｏｓｉｏｎ】
エリオが橋を破壊し、ガジェット達を抑える。

いい足止めだな。
だけど、またふわふわ上がってきた
「潰れてろ！」
スバルがまた落とすけど
ＡＭＦのせいでいまいち威力がないか……
「それなら、」
足でガードし、士近距離で殴る。
「やるなぁ、スバル。あれが一番早いよなぁ」
「お前らしい意見だな。」
「うるせー」
次はキャロか
「連続いきます。フリード、ブラストフレア……ファイヤー！」
キャロの龍が赤い火炎弾を吐く。

動きが鈍ったガジェットを…
「…捕らえる者、コトノハに答えよ、
鋼鉄の縛鎖、
錬鉄召喚、アルケミックチェーン！」

鎖がガジェットを捕獲する。

「へぇ、召喚ってあんなこともできるんだぁ」
「無機物操作と組み合わせてるね、なかなか器用だ。」

おっ！
ティアナか…

「こっちは射撃型、無効化されて、はいそうですか、じゃ生き残れないのよ！」
「スバル、後ろから仕留めるからそのまま追ってて」
「オッケー」

二重弾丸か…

「魔力弾？ＡＭＦがあるのに？」
【Ｙｅｓ．Ｔｈｅｒｅ　ａｒｅ　ａｂａｌａｂｌｅ　ｐａｓｔｗａｙ．】
（はい、通用する方法があります。）

「うん。」
なのはのデバイス、レイジングハートの言うとおりだ。

「弾丸を無効化フィールドを消す
膜状バリアーでくるむ。フィールドを突き抜けるまで外郭がもてば
本命の弾はターゲットに届く。」
ティアナが銃を構える

「多重弾核射撃。ＡＡランク魔導師のスキルなんだけど」

「ＡＡ！」

ティアナが銃に魔力を込める
「固まれ、固まれ、固まれ……、はぁぁぁぁ、」

無理やり多重にしやがった

「ヴァリュアブル、シュート！」

ティアナが放った弾丸はＡＭＦを突き抜け、残りのガジェットを片付けた。

「やったぁ、ティア、ナイスだよ！」
「スバル……うるさい。……これくらい…当然よ…」

なんとかなったか、まぁ危なっかしいけど
これからだしな

「リオル君どうだった？みんなの様子」

「判断速度は悪くないし、魔力コントロールもできてる、ＡＭＦの
対策とか技の精度はこれからってとこかな」

「うん。私もそう思うな。フェイトちゃんは？」
「うん。かっこよかったよ」
「はぁ～、フェイトちゃん、ちょっときて……」
なのはがフェイトを連れていく…
どうしたんだ？
「リオル君、みんなのことお願い～」
「あぁわかった」

さてと
「集合！」
「「「「はい！」」」」
「今日の訓練はこれで終わり。なのははフェイトと少し話があるみたいだから、俺から連絡しとくな。……明日も同じように、模擬戦形式だけど、ガジェットはたまに使う程度、俺達がみんなの相手をするからな」
「「「「はい！」」」」
マツナやディルミスもきたみたいだな
「明日もハードだからなしっかり食って、よく寝とけよ！」
「それから、みんなまだまだ体が成長してないから、無茶はしないようにね。」

「「「「「はい！」」」」」

これくらいかなあ、

「今日は終わり！お疲れ様。」

「「「「「ありがとうございました！」」」」」

「シャーリーもありがとう。お疲れ様」

「お疲れ様」

「デバイスのデータとれた？」

「はい、いいのがとれました。４機ともいい子に育てますよ、……

レディアンスさんも協力して下さいね」

【Ａｌｌ　ｒｉｇｈｔ】

（了解です。）

さて　俺達も戻るか、なのは　と　フェイト　はどうしたんだろう？

「腹減ったし戻ろーぜ。」

「そうだね」

「あぁ」

明日から本格的に訓練開始かな。

＃3　模擬戦！（後書き）

会話ばかりの回になりましたがご了承下さい。
デバイスの会話はミッド式、ベルカ式問わず英語にさせていただきます。（ｅｘｐｌｏｓｉｏｎ！以外。）

スペルミス　文法ミスなど多いかもしれませんが、お許し下さい。

フェイトとなのはの
オハナシは次回の冒頭で……

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2034ba/

魔法少女リリカルなのはStrikerS-あなたの騎士-

2012年1月9日01時45分発行